



多田 雅之

アルファパーチェス
取締役 社長 兼 CEO

ものづくりの現場にて

1997年から2001年末までの日本鋼管福山製鉄所(現JFEスチール西日本製鉄所)で過ごした4年間は、私にとって非常に思い出深い経験です。新入社員の一時期を除き、ほとんどの期間を日本や米国で本社スタッフとして過ごしてきた私が、「ものづくり」の最前線で本格的に仕事をする機会を得たこと、そしていきなり3名の作業長を筆頭に約50名の組織を率いることとなったわけで、現在につながるマネジメント経験の原点ともなった年月でした。

当時の鉄鋼業を取り巻く環境はとても厳しいものでした。そんな状況下においても、現場の仲間たちと高い目標を掲げ、試行錯誤しながらもやり抜く達成感を味わい、なによりも「現場の底力」を感じることができました。私が現職に就いた17年前に掲げたミッション、志は、間接材購買改革を通じて「日本の産業の変革と再活性化」に貢献するというものですが、これは福山製鉄所時代の経験からくる、日本の産業の現場力

に対する強い思いがベースにあります。

家族にとっても、この福山で過ごした4年間は印象深いものだったようです。広島県福山市は、ご存じの通り歴史にあふれ、自然にも恵まれた地域です。忙しい中にも時間を見つけ、家族で周辺各地に出かけたのも良い思い出です。私たち夫婦には4人の子どもがいますが、当地で生まれた三男はもとより、ほかの3人も幼稚園から小学校といった多感な時期を過ごしたこの場所を故郷と思っているようです。

私どもアルファパーチェスは昨年12月に上場を果たすことができましたが、上場の鐘を鳴らすとき、現在につながる職業人生の原点ともいえるこの経験をもとに誓った志の実現を図っていくことを心に刻みました。そして、それを再確認する意味でも、近いうちに子どもや孫たちも連れて、また福山の地を訪れたいと思っています。



福山製鉄所遠景



原料運搬船上にて



家族